

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 作楽(さくら)
日付	平成18年9月6日
評価機関	特定非営利活動法人 ライフサポート
評価調査員	介護支援専門員経験7年 老人保健施設相談員経験7年 厚生労働省認知症介護指導者
評価調査員	在宅介護経験12年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
「ゆったりと自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でやれる、喜びと達成感のある暮らし」「自分らしさや誇りを保った暮らし」を実現できるケアを目指している。グループホーム全体がゆったりとした空間であり、利用者と職員の行動からも開放感を感じさせる。2ユニットの仕切りもなく、利用者は皆で一緒に暮らしている。また、一人ひとりの自由性を重んじている。
職員が声を出して新聞を読んで利用者に聞かせ、その話しをみんなで話し合う。その後リハビリ体操が始まった。そのリズムに皆揃って出来ていたのには感心した。また、タンバリンを使って、リズムをとりながら歌う。大きな声を出す人も何人もおり、毎日の生活に慣れている様子が伺われた。ずっと続けている結果だろう。「これをするとうれしい」と利用者一人は話してくれて、もう生活の一部になっている。
玄関にAさんが花を生けて、毎日見に行くと水の管理をする役目がある。また汁物を注ぐ事が得意な人がいて、汁物がある時は必ずお呼びがかかる。このようにそれぞれ人が家てしてきたことを、担当制にしてずっと続けているので、上手だし、当然のような動きに違和感がない。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした
1. 転倒防止に関しては、その人の動線や転倒すると考えられる場所を把握して、大事になる前に防いで下さい。
2. 地域の方に働きかけて「認知症に関する勉強会」を開いて多くの皆さんに啓発されてはどうでしょうか。
3. 利用者の屋外での生活という視点を更に強めて地域への動きを考えて頂きたい。
4. 近隣のグループホームとの連携を様々な形で模索していただき、地域でのネットワーク作りにも力を注いでいただくと良いと思います。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>「自分の親を安心して預けられるグループホーム」「津山では一番良いといわれるグループホーム」を目指して、職員の研修、資格取得等も代表者は側面から支援している。</p> <p>今年は、利用者一人ひとりの希望や自分の気持ちを実現してあげられるような支援が出来るよう努力していこうと改めて考えている。「心 技 愛 顔」が職員の共通の心得である。「ゆずりあう心一つで和がたもつ」のスローガンをリビングルームに掲示している。「私、あの言葉が好き」と利用者がぼつり。毎日の暖かいケアを受けているからこそその共感であろう。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>敷地と建物全体にゆとりを持った空間である。ユニットの境がなく、2ユニットの利用者も全員と一緒に生活しているという、ゆとりで自由な暮らしをしている。おやつを買う時も「皆の分も」と利用者が全員に心遣いしている。仲間意識の芽生えであろう。この空間を利用してこそ、このグループホームの暮らしの目標が達成出来る源となっているのだろう。利用者も職員も、今の生活に馴染んでいると思う。広い菜園があり、四季折々の作物が収穫できる。毎日の食卓に出る野菜の話題も豊富である。</p> <p>各居室の表札代わりに各部屋の特徴がある作品はボランティアの作品とか。利用者はリビングルームで皆と過ごし慣れ親しんでいる。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人ですることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>開設当時に比べると、利用者は高齢に伴う機能低下が見られ、身体介護の仕事量が多くなり、介護する職員に余裕がなくなっているという悩みがある。</p> <p>毎日のリハビリ体操、その日の新聞記事を読んで感想を言い合う、タンバリンでリズムをとりながら歌を歌う等、楽しみながら機能維持に取り組んでいる。それに加えて食事をつくり、掃除、洗濯物を畳んだりその人に出来る事を担当制にして、現在出来る事はしてもらっているが、認知症の進行による精神的な能力低下に対するケアをどのようにしていくかが今後の課題である。回想法も重視して、利用者は「もう忘れてしまうわ」といいながらも、ぼつぼつ思い出して話している。</p> <p>全体的に利用者の出来ることを探して、出来るだけ力を発揮してもらおうという意識が感じられた。利用者の気持ちや希望をしっかりと受け止められるような職員の洞察力も必要である。そのためには利用者や職員の間でのコミュニケーション能力もケアの中で重要となる。そして、一人ひとりの適切な介護計画とその実施が益々重要と考えられる。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>会社の代表者と管理者が充分連携がとれており、職員と協力体制ができている。グループホーム全体の基本的な管理は代表者が行い、現場の管理は管理者が担うという形で運営を行っている。研修、資格取得も奨励して、より良い介護者になるための支援を惜しまない会社としての体制も整っている。</p> <p>例えば、利用者の転倒防止についての課題に対して、代表者、管理者、職員がお互いに意見を出し合い、協力し、解決するようにしている。</p> <p>グループホーム内のケアの質の向上については、日頃の努力の積み重ねで一步一步、目標に近づいていくが、これから地域密着型サービスとして位置付けられたグループホームの質の向上は、「地域」を視野に入れた運営が一層求められる。</p> <p>これからは地域との運営推進会議を積極的に活用して、地域の認知症ケアの質のリーダーとして一層のご活躍を期待する。</p>		